

緑の風 NEWS



JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2025年10月 1日 No.27

懲罰的日勤教育と不当労働行為を許さず、

JR東労組宇都宮運輸区分会

安心して働ける職場を創りだす特別決議

懲罰的日勤教育により病気休職をしている組合員が、10月1日復職する事が決定した。事象発生から約3年間、宇都宮運輸区分会は当該組合員を一人にさせず、支える取り組みを全組合員で継続してきた。この復職は宇都宮運輸区分会だけではなく、東労組の仲間を大切にする運動の大きな成果である！

当該組合員の復職を勝ち取ることができたのは、労働組合の組織力があつたからである。しかし、問題が解決したわけではない。宇都宮運輸区分会は大宮地本と共に「申16号安全・安定輸送を阻害する長期にわたる懲罰的日勤教育と、一部管理者によるパワーハラスメントを是正し、真の原因究明による正常な職場運営を求める申し入れ」を大宮支社と2年以上も議論して来た。団体交渉において大宮支社は「クビと言う2文字は適切ではないが、教育と言う面において問題はなかった。」との回答を繰り返している。当該組合員は、乗務復帰に向けた教育内容に悩み、出口の見えない不安が募る状態で「クビ」と言われ、職場に出勤できない状態に追い込まれた。副区長は「鼓舞する意味で使った」と回答しているが、鼓舞する為ならどんな言葉を使っても良いのだろうか？自殺を止める為の医療保護入院を判断した精神科医師の適応障害の診断も「この教育や発言が原因とは断定できない」と回答し、当該組合員への謝罪については一切拒否をしている支社の姿勢を見れば、懲罰的で人間否定の教育を実施した当時と全く変わっていないのである。団体交渉とは、労使で真実を出し合い再発防止をするために、お互いが事実を認めあいながら対策を決定していく場である。組合側からの真実を認めない、専門家の判断を認めない、コンプライアンス違反を改善する気が無いのであれば、残念ながら不誠実団交と言わざるを得ない。

宇都宮運輸区分会は、懲罰的日勤教育の問題を会社だけの責任とせず、我々にも責任があつたと反省し、再び繰り返さない為に全組合員と議論を続けてきた。職場で事象が発生した際には、原因究明委員会を開催し、設備や環境だけではなく、自分自身の弱点や仕事への向き合い方についても議論を重ねてきた。福知山線脱線事故のたたかいを続けているJR西労の仲間から学んだ「安全は労働組合が創る！」という強い意識で取り組みを全組合員で進めてきた。他職場や様々な集会などに参加して、懲罰的日勤教育に抗するたたかいの真実を訴えてきた。その結果、多くの職場で原因究明委員会が開催されるようになり、組合員を一人にすることなく支える運動が広がったと実感している。安全を守るために、時に厳しい議論も行い、仲間とお客様の命を守る、そして公共鉄道の鉄道員としての誇りとは何か？を話し合ってきた。その取り組みの中で高まった組織力が当該組合員の復職に繋がったのである。

たたかいは一つの区切りがついたが、会社姿勢は変わっていないことは明らかだ。旧さいたま運転区や旧小金井運転区で行われた不当労働行為に対して、団体交渉で「管理者は不当労働行為を行ってはいけないと知っているので今後はやらない」との支社の回答は「不当労働行為を止めさせる気はない」と言われたのと同じである。これではまた懲罰的日勤教育やハラスメントで涙する組合員が生まれてしまう。

宇都宮運輸区分会は、懲罰的日勤教育はもちろん、あらゆるハラスメントや不当労働行為も許さない。法律で認められた団体交渉で会社が改善する気が無いのならば、残念ながら社会に問題を明らかにし、健全な会社を創るよりほかないのである。仲間が困っている時には全員で支える事が労働組合の本質である。労働者は一人では弱い。だから労働組合が必要なのだ！私たちは一人ではない。困った時に仲間に相談し、助け合い、そして指摘をし合い、共に笑い合う。当たり前の労働運動を堂々と推し進めて、組合員を大切にせず話も聞かない会社姿勢を変えてゆこう！そのために、このたたかいで培った組織力をいかに発揮し、新しい東労組の安全議論を一人ひとりが声を出し創りだして行こう！

以上決議する。

2025年9月27日 JR 東労組宇都宮運輸区分会 第6回定期大会

組織の総力で勝ち取った職場復帰の成果と教訓を確認し、安全第一の職場をつくり出すため、全組合員でたたかい抜こう！